

## トップニュース

### 記念館が再開 今後の見学は予約が必要

記念館が50日ぶりに再開し、再び江東門に鐘声が響きました。

記念館はこれから、実名で予約してからの無料見学になります。主な原因は三つあり：一つ目は記念館の管理レベルをあげるため、二つ目は見学者の安全を守り、館内の秩序と見学体験をよくするため、三つ目は文物と遺跡をもっとよく保護するためです。

再開してから最初の3日間は全部で6760名の見学者が来館しました。そのうち、3月21日は1869人、3月22日は2552人、3月24日は2339人でした（3月23日は休館日でした）。



海外の見学者がどう予約するのか、多言語の参観案内を提供

海外の見学者も迅速に予約ができるように、記念館が英語、日本語、韓国語など、多言語の参観案内を用意しました。具体的には：

予約方法：記念館のホームページ或いは微信チャットで予約

URL <http://www.19371213.com.cn/en/>

予約時間：1-7 日前に 毎日 7:00-22:00

予約サービスセンターへ QR コードと引換えてから入館

必ずパスポートを持参すること

## 動き

### 二人の学会会員が清明節前に記念館で犠牲者を追悼する

清明節前に、南京大学の蘇定強院士と中国科学院崔向群院士が記念館を見学し、犠牲者を追悼しました。崔院士が「清明節前に犠牲者たちを追悼したい気持ちでいっぱいです」と述べました。



## 温もり

国際ボランティア吉川淳子さん、南京に安住

記念館の国際ボランティア吉川淳子さんは、最近ちょっと忙しいです。3月始めから、中日友好病院の要請をうけて、日本の医療機構に情報を提供するために、中国のコロナウイルス肺炎の診療手引きと看護手引きを日本語に訳しました。3月24日、再び記念館を訪ね、オンライン展示プロジェクト第4期「云游」を収録し、「二月蘭と紫金草」の物語を朗読しました。

2018年7月、吉川淳子さんが記念館の国際ボランティアに応募し、普段は史料の翻訳を担当しながら、たまに解説員を担当します。南京という国際平和都市をととてもお気に入り、またここで運命の出会いもあり、南京人と幸せな結婚もし、ご自宅も記念館のすぐ近くです。彼女は博士卒業後、医者として、また国際ボランティアとして、できる限り歴史と平和を語っていききたいそうです。



## 南京のベテラン記者が 20 年をかけて平和の花紫金草を報道

今平和の花紫金草が満開の季節を迎え、この紫色の花の物語は日中間ではよく知られています。南京のベテラン記者陳正栄さんが 20 年をかけて紫金草に関して報道してきただけでなく、長編小説「紫金草」と長編ノンフィクション「紫金山麓の二月蘭」も相次いで出版し、紫金草の平和の旅を語ってくれました。

2017 年、南京大虐殺事件 80 周年にあたり、小説「紫金草」が出版され、同じ年により多くの日本人にも読んでいただこうと、日本語にも訳されました。記念館張建軍館長が「今では紫金草はもうすでに平和のシンボルとして日中間の平和を愛する人々の心の中で、すっかり根を下ろして、芽を吹き、勢いよく育っています」と言いました。



## 紫色の花の海、ここであなたに会いたい

いい香りの中で、蜂が忙しく踊っている……記念館平和公園の紫金草公園はすでに紫色の花の海になりました。花が静かに見学者を歓迎しています。世界中のコロナウイルスが早く終熄して、また皆様に再会できるのを楽しみにしております。

